

仏は 何をなしたもうか



深川倫雄 (1924~2012)

ご開山(親鸞聖人)が、これが浄土真宗の教えだとおっしゃった『無量寿経』の前半は「弥陀分」というて、お釈迦さまが阿弥陀さまとはこういう仏さまなんだとお説きになっているけれども、その中には一カ所も我々の生き方が告げてない。また一言も私どもの罪が深いとは説いてない。有り難いね、これは。罪深い者に「汝の罪は深い」と告げるひまはないんだ。

川端を通りかかったら、子どもが土手で遊んでいたらしゅうて、一人が溺れておる。そこへ通りかかって「こんなところで相撲とるから溺れるじゃないか」と、罪を告げるひまはないではないか。溺れておるなら、何であろうとまず先に救うてやらねばならん。

それがお救いなんだから、「我何をなすべきか」ではなくて、「仏何をなしたもうか」を聴聞するんですよ。

『如来をさく』(彰順会篇・探究社刊)より

報恩講とは

親鸞聖人は、そのご生涯をとおして阿弥陀さまの「われにまかせよ そのまま救う」とのよび声をきき、名号によるお救いを真実のみ教えとしてお示しくくださり、私たちもそのみ教えに出遇わせていただきました。多くの方がこの真実のみ教えを喜び、先人たちが親鸞聖人ご命日の法要を「報恩講」として脈々と受けついで、700年を超える歴史の中で、今日まで大切にお勤めしてきました。真実のみ教えをお示しくくださった親鸞聖人に感謝し、阿弥陀さまのお救いをあらためて心に深く味わわせていただく、一年でもっとも大切なご法要である報恩講にお参りいたしましょう。

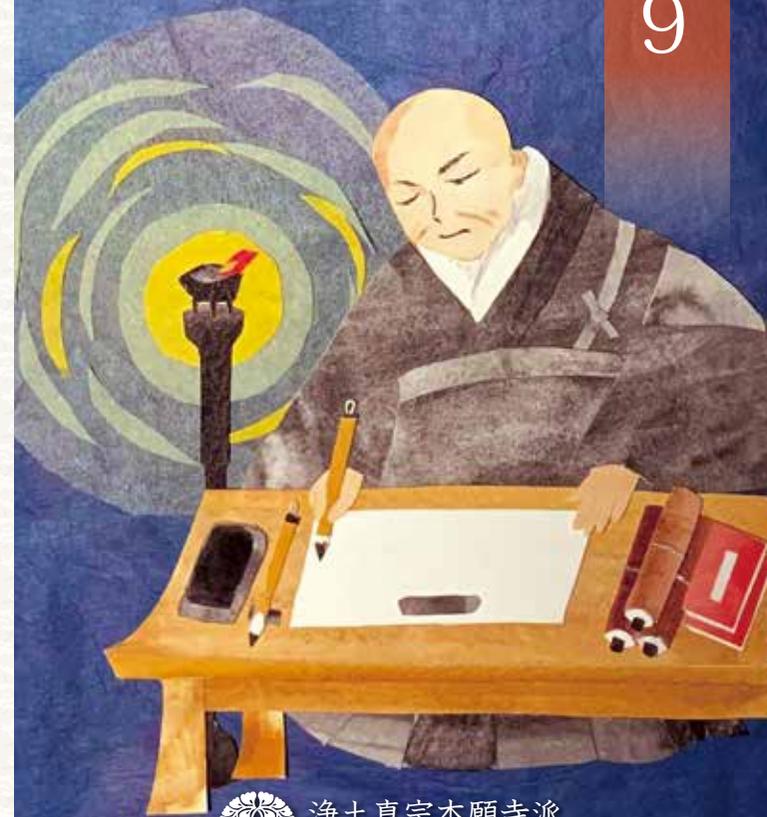
【西本願寺グランドツーリングのご案内】
(全国別院巡拝スタンプラリー)

※西本願寺グランドツーリングの詳細や、これまでのリーフレットのバックナンバー等のダウンロードはQRコードから



報恩講の案内

の報恩講は



浄土真宗本願寺派
(西本願寺)

表紙切り絵: 藤井 智子
編 集: 浄土真宗本願寺派総合研究所
重点プロジェクト推進室

第1版 2022.08.250,000

「立教開宗」の年とされる1224年(元仁元年) 稲田草庵において「教行信証」を執筆される親鸞聖人

《感謝の記念日》

「母の日」、「父の日」、「敬老の日」、さまざまな記念日。

一番身近でお世話になっている家族に、日頃の感謝を伝える日。

本当は普段から感謝を伝えたいところですが、案外むずかしいものです。

私たちは自分がしてあげたことはよく覚えていますが、

人にしてもらったことはすぐに忘れてしまいます。

家族や周囲の優しさに甘えて、恩もいつしか当たり前のことになってしまがちです。

私たちには、あらためて恩に気づく機会が必要かもしれません。

浄土真宗には「報恩講」という大切な日があります。

親鸞聖人は、阿彌陀さまからの「そのまま救う」とのよび声をきき、「名号」すなわち、お念仏ひとつで救われていく道を、その身をもって示してくださいました。

そのご苦勞を偲び、ご恩に報いようとする集いが「報恩講」です。

「もったいない」「おかげさまで」・・・感謝して生きる喜びが恵まれます。

「報恩講」は、慌ただしい毎日、大切なことを忘れて過ごしてしまいがちな私たちが、感謝の生活を思い出す機会。いわば「感謝の記念日」なのです。

《浄土真宗のみ教え》

南無阿彌陀仏

「われにまかせよ そのまま救う」の 彌陀のよび声
私の煩惱と仏のさとりは 本来一つゆえ

「そのまま救う」が 彌陀のよび声

ありがとう といただいて

この愚身をまかせ このままで

救い取られる 自然の浄土

仏恩報謝の お念仏

み教えを依りどころに生きる者 となり

少しずつ 執われの心を 離れます

生かされていることに 感謝して

むさぼり いかりに 流されず

穏やかな顔と 優しい言葉

喜びも 悲しみも 分かち合い

日々に 精一杯 つとめます

(ご門主さまのご親教「浄土真宗のみ教え」についての親教より)

「浄土真宗のみ教え」についての親教
全文は、QRコードから



親鸞聖人のご生涯

親鸞聖人は、1173年5月21日(承安3年4月1日)、京都・日野の里でご誕生、9歳で得度(仏門に入り僧となること)されました。比叡山で20年間修行されましたが、迷いや苦悩から逃れることができませんでした。そこで山を下り、六角堂での救世観音の夢告により法然聖人の門弟となられ、専修念仏に出遇われました。35歳の時、専修念仏停止によって越後に流罪となり、39歳で赦免の後、妻・恵信さまや家族とともに関東へ移り、約20年間布教を行われました。52歳の1224年(元仁元年)は、主著『顕浄土真実教行証文類(教行信証)』を著された年とされます。その後、京都に帰りさらなる著述活動を行われ、1263年1月16日(弘長2年11月28日)、90歳でご往生されました。

現在『教行信証』を著された1224年(元仁元年)は、「親鸞聖人立教開宗」の年とされ、2023年(令和5年)3月29日～5月21日の間、親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年慶讃法要がご本山で勤まります。「親鸞聖人の説き示してくださいました浄土真宗の教えに出遇うことがなければ、今の私はあり得なかったという聖人への感謝と、その教えに出遇えたことの喜びを込めて、聖人のご誕生を祝い、『立教開宗』に感謝する」法要です。皆さまぜひ、お誘いあわせのうえ、ご参拝くださいますようお願い申し上げます。

【親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年慶讃法要のご案内】



ご参拝方法や法要の詳細は
QRコードから



【「子どもたちの笑顔のために募金」のお願い】



海外の貧困に苦しむ子どもたち、
子ども食堂、学習支援、児童養護施設等を支援

【郵便振替】00940-8-282766

(加入者名) 子どもたちの笑顔のために募金
※通信欄に寄付者の本願寺新報掲載の可否を明記
【銀行振込】、【キャッシュレス募金】の
詳細はQRコードから

